

わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎21

医学ジャーナリスト 植田美津江

男女のすれ違い

男と女、あるいは人と人というものは、「すれ違う」のが大前提である、と、つくづく思う。

例えば、最近とみに目につくようになった健康食品やサプリメント。市場規模は1兆円をはるかに超えているというから、人々の健康に対する関心や病気になるたくないといった願いは想像を超えたものがある。

その中で、特に売れ筋は何かといえ、これもほぼ決まっている。

男性ならキールワードは

「髪の毛」と「男性機能」

である。つまり品のない表現でまとめしまえば「はげ」と「インポ」だ。程度の差はあれ、男性た

ちの髪の毛と男性機能への関心には並々ならぬものがある。

一方、女性とはいえば

「瘦(そう)身」と「若返り」に尽きるだろう。とりわけ、日本女性のダイエットへの情熱はすごい。「やせる」とか「スリム」の文字が目につかない日はないといっても過言ではない。健康サイトで最も検索件数が多いのは、「がん」と「ダイエット」だと聞き、やっぱり、との思いを強くした。

しかし、ここでふと疑問に感じることもある。

インポは外見ではわからないが、問題は「はげ」である。女性は決して頭

の薄い男性が嫌いではない。むしろ、愛嬌(きょう)があるとか可愛いとか、人によっては男らしいという感情を持つ場合も多い。もちろんそのはげ方にもよるが、男性が気にするほど「はげ」はネガティブイメージでは

ほうを好むものだ。もともと男性にはマザコンが多いが、ふくよかな女性に対しては、母なるイメージも伴って安心感やほのぼの感を覚えるのだから。こちらで瘦せた女性がいいと言うのは圧倒的に少数派である。とこ

ここでふと疑問に感じるのが...



ろが、女性にはその声が届いているのか、届いていても無視しているのか、かわからないが、それほど太っていないにも関わらず、ほとんどが一心不乱に「痩せる」方向にまっしぐら、これを

ない。それなのになぜ、あんなに頭皮を叩いたり、増毛に莫大な金を注ぎ込むのだろうと、むしろ不思議に思うほどである。逆に「瘦身」も同じ。ほとんどの男性は、ぎすぎすに痩せているより、少々ぽっちゃりしている

男女の「すれ違い」と呼ばずに何といおう。両者とも、異性のためではなく、あくまで自分のためであり、自己満足に酔いたくて髪の毛や痩せることにこだわっているところが見えなくもない。ところが、最近知った

ところでは、男性機能アップをうたった健康食品を購入するのは、半分以上が女性だといわれている。つまり、自分の夫や恋人の精力増強をひそかに願っている女性が少なからず存在するということになる。ここでは「すれ違い」は起きていないようであり、男女がきちんと向き合おうという姿勢が感じられる気がしてちょっと安堵(ど)した。

自分が思っているほど他人は気にしていないのに、鏡に向かって髪の毛をなでつける必死な形相やおなかを引っ込めて体重計に乗る姿……

自分自身を愛する男と女それぞれの姿は、人間くさいという点でどこか滑稽(こっけい)であり微笑ましいが、「すれ違い」はほどほどが好ましいとも思うのである。

(株)メディカル総研代表取締役

イラスト・三浦義雄